

日中経済協会訪中団参加報告

ERINA専務理事 佐藤 衛

2007年9月25日から9月28日までの間、第33回の日中経済協会訪中団に参加した。今年は日中国交正常化35周年という節目の年でもあり、参加者は154名と過去最大となった。

日程としては、

- ・25日、国家発展改革委員会との会議
- ・26日、商務部との会議・宮本大使表敬
- ・27日、日中省エネ環境総合フォーラム・温家宝総理との会見・日中国交正常化35周年記念式典
- ・28日、フォーラム企業プレゼンテーション

と多彩なものであり、残暑きびしい中、ネクタイもゆるめられない堅い出張となってしまった。

この中で、ERINAと関係の深いやり取りがかわされた温家宝総理との会見について詳述してみたい。

会見は、人民大会堂上海庁で全員参加のうえ行われた。日本側から御手洗富士夫最高顧問（日本経団連会長）が次の3点について発言した。

- ・環境・省エネに関する日中間の協力促進
- ・日中の協力関係を草の根レベルまで拡大
- ・胡錦濤国家主席の出来るだけ早い時期の日本訪問

続いて張富士夫団長（日本経団連副会長）から、次の2点を補完した。

- ・アジア経済の安定と発展のため、日中両国はグローバル・パートナーズとして協力を加速
- ・来年6月に新潟で中国東北三省に内モンゴル自治区を加えた地域と日本の東北7県が「日中経済協力会議」を開催するので、理解と支援を依頼

これについて、温家宝総理は次のよう述べた。

- ・中日両国関係に重要な転機が現われているこの好機を大切にして、両国の協力関係を更に広げる
- ・中国側は福田総理の訪中を歓迎、胡錦濤国家主席の来年の正式訪日に向け準備中
- ・環境保護と省エネが両国の経済面の協力の重点

- ・中国東北地区基地振興を進めている中、日本の企業が投資をすることを希望
- ・日中両国間の経済協力にかかる法律の整備充実が重要
最後に、この出張と直接関係は無いが、北京の大気汚染と交通渋滞はひどい。来年のオリンピックが無事運営できるか、中国の名誉がかかっていると思った。

